

透析機関附設特別養護老人ホーム入居者・ご家族の

透析導入に関する意識についての追跡調査 2

社会福祉法人 照善会

○山元紀子 小島千佳子 小森優也 桑内清美 小松利恵子 船越哲
原田孝司

【背景】

当施設は、透析専門病院に附設して開設した特別養護老人ホームであり、透析患者が9割である。

【目的】

透析導入時と現在の生活について入居者にご家族に質問紙調査を行うことによって、透析導入時と現在の治療、終末期における意識調査を行う。【方法】入居者19名、ご家族18名に個別に質問紙調査を行った。入居者は聞き取り調査とした。

【結果】

認知度Ⅱbが約10%上昇し、新たにMが12%出現した。導入時の医療者からの説明について、入居者の理解度が約3割から約5割と上昇していた。透析治療について辛さや拘束感を感じていた入居者の割合は、2014年で約5割であったが、2015年の調査では3~4割と減少している。看取りの場は、ご家族・入居者共約5割が施設との回答だったが、これも約3割に減少した。

【考察】

「透析導入時の説明」と「現在の治療が辛い」ことが反比例しているのは、認知度が上昇した事に関係している。終末期の質問では、家族・患者とも意識が低いことが窺えた。